7. 教育費

* スポーツチームやアーティストなどを活用した教育プログラムについて

＜要旨＞

　次代を担う子供たちのために、大学やスポーツチーム、アーティスト事務所などが多い港区の特徴を活かした教育プログラムを実施するべき。

＜本文＞

　区の特色を活かした教育プログラムの可能性についてお伺い致します。

　港区には多くの大使館、スポーツチーム、アーティスト事務所、大学等があり、大きな魅力となっています。このような特徴を活かし、港区だからこそ行える教育プログラムを加えるべきだと思います。例えば、NHKの人気番組に「課外授業　ようこそ先輩」というものがありますが、港区在住のアーティストやスポーツ選手の方々に「街に住む先輩」として先生になってもらい、授業を展開していくのはいかがでしょうか。

　渋谷区では、出前授業として野球教室を実施したり、ホームゲームに招待したりと、子どもたちからの人気を得ているようです。これを港区でやるなら、地域密着型のチーム形成を目指す日本プロバスケットボールリーグ「bjリーグ」などへのアプローチが考えられます。先行事例の紹介も含め、戦略的に「街に住む先輩」を授業に活用することにつて、お伺いします。

　また、区内にある大学と連携したスポーツ教育プログラムも１つの案として考えられます。例えば、慶應義塾大学には大学界でトップクラスの成果を残している部が多く、日本の大学の第一線で活躍している学生たちとともにスポーツを楽しむという事は子供たちにとって貴重な経験になるはずです。大学のブランド力を活かしたこの取り組みは教育面や地域活性化の面で大きく区に貢献出来る可能性を秘めていると思います。

　地域•教育•大学を巻き込んだものとしては早稲田大学の体育会各部、自治体、企業が連携を図った「ワセダクラブ」というもの先行事例というものがあります。将来を担う子どもたちの育成やブランド力の向上に、身近な、地元のエキスパートに積極的に参加していただくことは意味があることだと思いますが、このような取り組みについてどのようにお考えでしょうか。答弁の方、宜しくお願いします。

　また、現在、港区では区内に在住または区内の小学校に在籍している子どもに対して、放課後の時間を利用した「放課GO→」の取り組みが」あります。この「放課GO→」での主な活動内容は、スポーツや遊び、宿題などを行うフリータイムが基本です。私はこのプログラムに、さらなる可能性を感じています。実際には委託している事業者の調整が必要かと思いますが、放課後の時間を利用して希望者にアーティストやスポーツ選手などのプロのレッスンを受けてもらうのも効果的かと思います。こちらの検討も是非お願いして、私の質問を終わらせて頂きます。